

平成 26 年度 第一回南砺市行政改革推進委員会会議録

1. 開催日時 平成 26 年 10 月 28 日（火） 午後 1 時 30 分から午後 4 時 00 分
2. 開催場所 南砺市役所福野庁舎 2 階 講堂
3. 出席者 ○委員 15 名
永森常次委員、安達行成委員、野原教正委員、島田勝由委員（副委員長）
林則雄委員、中嶋與四雄委員、蟹野正男委員、長尾治明委員（委員長）、
長谷川邦子委員、山田栄子委員、本多峰子委員、上埜慎也委員、
野村玲子委員、宮下直子委員、沖田光弘委員
○行革推進本部 11 名
田中市長（本部長）、工藤副市長（副本部長）、高田教育長（副本部長）、
長澤市長政策室長、高山総務部長、杉村民生部長
原田産業経済部長、大西建設部長、豊川教育部長、
仲筋地域包括医療・ケア局長、清水議会事務局長
○事務局（行革・施設再編課）5 名
竹谷総務部参事、西井行革・施設再編課長、石崎副主幹、
長岡副主幹、野村主任
4. 欠席者 ○委員 2 名
松本久介委員、石黒厚子委員
5. 議 題
 - 1) 第 2 次南砺市行政改革実施計画の進捗状況
 - 2) 第 2 次定員適正化計画の策定について
 - 3) 公共施設等総合管理計画の策定について
 - 4) 公共施設再編計画進捗状況
 - 5) 施策・事務事業マネジメントシートの公表について

○開 会 午後 1 時 30 分

【総務部参事】

皆様には、何かとご多用のところをご出席いただき、誠にありがとうございます。只今より、行政改革推進委員会を開催します。私は、会の進行を務めさせていただきます、総務部 行政改革・公共施設再編特命担当の竹谷でございます。よろしくお願い致します。本日は、松本委員、石黒委員からは、所要により欠席と聞いています。なお、出席委員及び市側の出席者につきましては、お手元の座席表のとおりとなっております。はじめに、委員の皆さんに委嘱書を交付させていただきます。

<市長 から委嘱書の交付>

【総務部参事】

市長から委嘱書を交付いたしました。平成 28 年 3 月までの期間となっておりますので、

よろしくお願ひします。次に、委員長及び副委員長の選出について、お諮りいたします。「行政改革推進委員会設置要綱」では、委員長は委員による互選、副委員長は、委員長の指名によることとなっておりますが、いかがすればよろしいでしょうか。委員の皆様からご意見があれば、お願ひいたします。

特にご意見がなければ、誠に僭越ではございますが、「事務局一任」の声がありましたので事務局から、提案させていただきたいと存じます。長尾委員様には引き続き委員長を、新たに、島田委員さんに副委員長をお願いしたいと思ひますがいかがでございましょうか。ご異議がないようでありましたら、委員の皆様方の「拍手」をもって、ご了承を賜りたいと存じます。

ありがとうございます。それでは、長尾委員長様、島田副委員長様、委員長席、副委員長席への移動をお願ひいたします。

ここで、長尾委員長様からご挨拶をいただきたいと思ひます。よろしくお願ひいたします。

【委員長】

只今ご氏名いただきました、富山国際大学の長尾と申します。引き続き委員長の大役をおおせつかり、さらに気を引き締めていかなければならないと改めて思った次第です。地方自治体の取り巻く環境を考えると難しい時代になってきました。これから50年後までの予測によると日本の人口はさらに減少していくといわれています。全体で1億人を切る姿が将来予想されています。人口構造的には、高齢者が増え、働く世代、少子化傾向が続いていきます。子供が従来のようにたくさん生まれることは期待できない時代にあつて、日本の生産体制、しくみが市町村でどのように考えていくか難しい時代です。働く世代をどうしていくか考えた場合、思い切った政策が問われることもあるかと思われまふ。このような人口減少時代において、経済的に、地域社会においても、縮小傾向になってきますが、各地域にはいろんな資産が作れられており、これらの資産をいかに残していくか、財政的に考えていく必要があります。成長もこれから期待できない中でどのように市町村が持続性を保っていくか、財政状況という制約がはいつてくるので、やはり取捨選択し、地域で残す資産、残さない資産について、市民とともに英知を絞ってはつきり決断をしていかなければならないと思ひています。今までのように残せ、やっつけ、というのでは、お金の面でも無理をきたすのではないかと思ひています。今お預かりしております行政改革においても、苦渋の選択を各委員の皆様にしてもらわなければいけない。過去の流れをそのままいけば、維持していく判断となりますが、将来を考えると、この時点で決断をして、残すべきもの残さなくてもよいもの、われわれが英知を絞って判断をしていかなければならないと思ひています。今日も、今までやってきたことの進捗状況、これからの計画についてご審議をいただきますが、司会役として、各委員の忌憚のない活発な意見がでるように司会進行を勤めさせていただきたいと思ひますので、あらためてよろしくお願ひいたします。

【総務部参事】

ありがとうございます。次に、副委員長様からご挨拶をいただきたいと存じます。よろしく願いいたします。

【副委員長】

本来でありますと、委員長代表の挨拶ではないかと思えますけど、今日のご丁寧にも副委員長にも挨拶をせよということで、戸惑っているところです。南砺市は丁度10周年を迎えようとしています。この会には、それぞれの地域、団体のエース級の皆様が選出されていると思います。これからの南砺市をどのように作りあげていくかという大切な会議だと思えます。この10年間、4町4村が特色を出しながら、少なくとも合併協議会で、6千、7千の項目について議論し、それに向かって垣根もかなり低くなってきました。その約束を破ると、市民の皆様から嘘をついたといわれることとなります。この10年は、サービスの平準化、市民の一体化の醸成に取り組んだと思えます。これからの10年は、意外と厳しい10年になるのではないかと考えています。今までは遠慮がちな面があったかと思えます。これからは、ぜひ合併の効果が実感できるまちづくりに向け、皆さん方のお知恵をお借りしながら委員長、私ともどもしっかりととりまとめていきたいと思えます。多くの意見が出ればありがたいと思えますので、今後ともご協力ご支援賜りますようお願い申し上げます。よろしく願いいたします。

【総務部参事】

続きまして、南砺市行政改革推進本部長であります市長からご挨拶を申し上げます。

【市長】

皆様お忙しい中、お集まりいただきありがとうございます。行政改革懇談会を行政改革推進委員会と名前を改めまして、本部でもいろいろと練り上げてまいりました。委嘱書をお渡しさせていただきましたが、委員の皆様にはよろしく願いいたします。委員長、副委員長から先程言葉をいただきましたように10年の成果、今までの検証をしっかりと、今後の5年後10年後にどうあるべきかを明確に示さなければならない年でありますし、いろいろなご意見を賜りたく思います。10年経って考えてみると、想像以上に人口減少がじわじわと覆いかぶさっています。これは、全国の市町村の課題であります、全国で面積だけ足しますと7、8割が、5万人、7万人以下の小規模な市町村ではなかと思っています。大都市に集中した人口の偏りがある状況の中、狭い島国の中でどのように均衡ある発展を見出すのか、それが日本国民の幸せにつながるということを声を高くして言い出していかなければならないと思っています。災害が多く発生し、また発生する可能性がありますので、地方は、魅力を発見し、いろいろ取り組んでいかなければならないと思えます。今回の行政改革では、必要なもの、必要でないものを取捨選択し、施設をいかにうまく使

っていくか、その運営を行政がするべきか民間がするべきか、いろんな選択肢の中から英断しなければなりません。次の世代に何を残すべきか、魅力ある地域のためにどうあるべきかを、優先順位をつけて明確に振り分ける仕事だと思います。地方税交付金は減っていきますので、予算の枠を身の丈にあったものにしなければならないですが、それ以上に課題が大きいものですから、いかに知恵を出すか、皆さんとともに共有していきたいと思っています。このところ、国では、「まち・ひと・しごと創生本部」が発足し、5年間の計画と50年間の長期ビジョンを作っています。毎年、市町村としての5年の計画と50年の長期ビジョンを作っていくこととなりますが、今までしてきたことが良かったかということより、もっと奇抜なアイデアを出して次元の異なる政策をしていかなければならない、と基本方針に書かれています。しっかり受け止めて取り組んでいきたいと思っています。今日は、公募委員も含め新しい顔ぶれになりました。女性の委員さんも増えました。公募委員4名のところ3名となっていますので、年度中に増えることもあると思います。事務局としては、行革・施設再編課の係を2つとし、人員も増やしました。また、来年度以降の市の施設の指定管理制度の導入を議会、地域のみなさんと議論し、文化センター、児童館など行政が直営で行ってきた施設への指定管理の導入を進めています。さらに来年度、仕事の流れをもう一度考え直そうと思っています。部や係を従来どおりやればよいのか、仕事の内容も洗い出しながら未来に向かっての組織作りの見直しをし、そのことが庁舎の議論にもつながっていくと思いますし、大きな問題、課題に向かっていくスタートになると思います。住民のみなさまへのサービスをできるだけ下げず、南砺市らしい地域づくりをするために、きちんとした取捨選択し、本当に50年後に何が残すのか真剣に議論していかなければならないと思います。委員のみなさまにいろいろとご指導賜りますようお願い申し上げます。どうぞよろしくお願いいたします。

【総務部行革・施設再編課長】

それでは、議事に入らせていただきます。ここからの進行は、委員長さんをお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。

【委員長】

それではただ今から議事次第に従いまして進めていくことにいたします。はじめに、協議事項と致しまして「第2次南砺市行政改革実施計画の進捗状況」について事務局から説明をお願いします。

〔事務局から説明〕

【委員長】

事務局から説明いただきました。質問、ご意見など、どなたからでも結構ですので、よろしく願いいたします。いかがでしょうか。

【A 委員】

デイサービスセンター事業の一部民間委託についてですが、シルバー人材センターには何の業務を委託したのでしょうか。

【地域包括医療・ケア局長】

調理業務については、民間業者に委託しています。シルバー人材センターへの委託は、運転業務になります。

【B 委員】

財政の健全化の項目で広報誌等への有料広告掲載があり、市営バス車体とありますが、掲載の基準はあるのでしょうか。気になったことがあります。あまり景観がよくないものもありますが、市民を乗せるバスには、景観を問わないのでしょうか。

【市長政策室長】

基準としては、公序良俗に反しない点が大前提となっています。広報の広告もその基準に準じており、若干門戸を広めている面もありますが、何か具体的な例があれば教えてください。

【B 委員】

市のものではないと思いますが、パチンコの広告がついたバスもあり、それに乗るのは少し恥ずかしい感じがします。観光を目指しているので、違和感のないものの方がよいのではないかと思います。

【C 委員】

ホームページの利便性向上の項目で、ホームページの閲覧件数が、だんだん減ってきている感じがします。もっと見やすくし、市民が情報を得る場がもっと必要ではないかと思えます。ツイッターなどの取組はよいとして、誰でも、ホームページを見れば分かるという状況になるよう考えて欲しいです。また、民間委託推進の関係で、25年、26年に取り組みなし、策定に向けて検討するとなっていますが、進捗状況はどうなっているのかお聞きします。

【市長政策室長】

ホームページに関しましては努力しているところですが、根本の様式を変えていないの

で、若干飽きがかきているのかなと思います。工夫している市もありますので、修正には結構なお金がかかりますが、予算の許す限り、兼ね合いを見ながらみなさんに見ていただけるホームページとなるように努力していきたいと思います。

【総務部長】

民間委託の推進につきましては、今まで取り組んできたものがありますが、新たに 25 年に取り組んだものがないということで報告させていただいています。ただ、今後、民間でできることは民間に委託するよう、市内ではアウトソーシングの検討を進めているところです。

【D 委員】

公共交通などの接続性の見直しについて書いてあります。加越能バスや城端線などがありますが、バスが相当減っています。市営バスである「なんバス」と公共交通の接続性の見直しとなると、調整が結構難しいと思いますが、どうなっているのでしょうか。

【市長政策室長】

新幹線がいよいよやってまいりますので、今、見直しを図っています。基本的になんバスはJRの福野、福光、城端の駅に合わせて利用できるように設計しております。何分にも本数が少ないこと、平均乗車率が2人程度しかないこともあり、アンケート調査をとりますと、公共交通機関を使いやすいと感じる市民の割合というものが、もともと乗っていないものですから、乗らないから不便と感じるのか、不便だから乗らないのか分かりませんが、結果的には、なかなかいい数値にはなっていません。そこで、新幹線にあわせまして、もう一度、なんバスの体系的な見直しを今年度中に行う予定であります。金沢駅までダイレクトで行けるバスも試験運行する予定でありますので、そういったことも含め、市民の皆さん、観光客のみなさんにも利用しやすい体系に見直して来年度から実施したいと考えているところであります。

【E 委員】

行政センター機能の見直しの項目についてです。この先、行政センターそのものが変わっていくのではないかと思いますけど、平などでは、高齢化していきますので、地元の職員がいないことには、不安を感じます。やっぱり、顔の知っている人がいるのといないのでは、話のしやすさが違うと思います。同じことがなんと農協でも言われていますが、やはり、村外の職員が増えてくると行きにくい。そのようなことが、行政センターの見直しのなかででてくるのではないかと思うのですが、どうなんでしょうか。

【総務部長】

行政センターに顔見知りの職員がいないと行きにくいという話は聞きます。ただ、10年間で200人の職員を減らしている中で、その地域出身の職員だけで構成するのは難しいということがあります。別にその地区出身じゃなくても行政サービスの面をしっかりと行うという意味で、待つということではなく、地元と積極的に関わっていくという姿勢をもつことが、地元出身の職員であろうとなかろうと市職員としての資質であると思いますので、今後、指導を徹底していきたいと思います。センターのあり方については、小さい行政とするためにはどうしていくかということはあると思いますが、職員に相談しにくいということは、どういう体制でもあってはならないことでありますので、しっかり指導していきたいと思います。

【F 委員】

モニタリングの実施と公表では、評価指標が悪くなっているということで、備考欄には、評価委員によるモニタリングの強化により「A」評価の割合が下がっているのですが、どのように厳しくなったのでしょうか。市の監督の強化とありますが、やる気が肝心だと思いますので、やる気をあげる、褒めるような仕組みで民間の活力を活用すればよいのではないかと思います。

【総務部長】

これまでの評価がどう変わったか、とうことですが、指定管理者制度の運用指針を新たに策定しております。今まで評価は定性的なものが多かったのですが、今回は定量的な評価にし、誰が見ても、項目ができていないかできていないか、をチェックシートで確認できるようにしました。これまでは担当課が評価していましたが、客観的に、各項目について評価するように体制を変えましたので、結果的にこのような数値になっています。ただ、指定管理を受けている方々が、気をつけなければいけないことに敏感になったという点では、サービスの向上につながっていくことを期待しているところです。

【委員長】

いろいろな質問をいただきました。聞いていまして思ったのは、これから新幹線の開業により、新高岡、金沢から観光客が流れてくると思いますので、接続ダイヤの問題は、重要な要素と感じています。県外から来られる客が公共交通に乗る場合、どれくらい待たなければならないか、ということでは、都会の人間は、首都圏の地下鉄にしても、接続が迅速につながっていますので、都会の人が15分待つのと、われわれが15分待つのと感覚が全然違うと思います。時間としてどのくらい待てば接続できるのか、観光地として明確にしておく必要があるかと思います。顔の見える職員の話がありましたが、コンビニやスー

パーでも同じことですが、顔写真を店内レジに見えるところに貼ったら、お客さんが声がかかりやすくなって、売り上げに貢献したという流通業の調査の結果もございます。職員の顔写真と名前を添付するのも一つの方法かと思います。住民から声をかけてもらう仕組みもあってよいかと思います。ホームページは広報で重要な役割をもっていますので、絶えず新しい情報が入っていること、また見やすいということ、変化がないと飽きてしまいますし、次への期待もなくなってしまいますので、刷新は難しい面もありますが、更新システムの体制をしっかりとすることが重要かと思います。私自身気づいた点を述べさせていただきました。

【B 委員】

新幹線がくるということで、在来線を使って J R で東京までいくとだいたい高岡で 46 分待ちます。どの時間で利用しても 45,6 分の待ち時間なので、どうにかならないものかなと思います。観光客は、バスは乗りにくいと思います。バスは、どこの路線か明確に書いてないし、バスのひとつひとつの停留所はとても不安になります。線路なら外の景色を楽しめ、城端線を使うと思います。J R と新幹線のアクセスをしてもらいたいと思います。

【委員長】

新高岡の停車も問題となっていますが、多くの方が周辺の観光地を訪れたために、いかに接続し、J R を利用してくれるかということも、新高岡駅への後押しにもなると思います。

【市長政策室長】

新幹線の便数は発表されましたが、まだ何時に来るかは発表されていません。それに合わせて、8 便、氷見、高岡、砺波、南砺の協議会で増便させます。新幹線の時間で 45 分待つということにはならない仕組みになっています。本来なら J R さんにやっていただきたいところですが、そうもいっておられないので、4 市が協力して取り組むということです。バス停なり駅なりで、何もなくて 40 分、5 分待つということは大変つらいことだと思います。かといって自治体が 5 分、10 分おきにバスを走らせるのは困難です。ですから、待っている間に、お茶が飲める、ちょっとは調べることができる、というもてなしの仕組みで空き時間をまっけていただくということが南砺の魅力になると思いますので、あまり退屈した待ち時間にならないように検討すべきかと考えています。1 : 01 : 09

【産業経済部長】

観光客の方がバスだと不安で使いにくいという意見をいただきました。2 次交通に何を使うかは、それぞれの個人が選択することであります。バスについては、乗り場も高岡駅が変わったりしています。高岡や金沢で下りられた方への情報提供、バスが何番に何方面に行けば、何分後に南砺のどこに着くといった情報をきっちりと流せればと考えています。

バス路線やJRでもきめこまやかな情報提供を行いたいと考えています。

【A 委員】

安来の方面に行きましたら、大変駅の中が楽しくて、満足して帰れそうな雰囲気でした。南砺市は民謡の宝庫であり、いろんな祭りがあるのに、市内に城端線の駅が多いせいか分かりませんが、駅それぞれに何の魅力もPRも感じません。例えば、城端では、切符の自販機があり、朝一番に乗ろうとすると自販機を使ってくださいという風になっています。祭りの何かも飾ってあるけど、相当日焼けしていたり、車を待つとか、どこかへ行こうとかのワクワク感が駅になく、自販機ばかりが占領しているという話も聞きます。城端、福野、福光の駅が特徴のある駅、自分たちの駅として魅力を発信できればいいのですが、何の特徴がなく、ただ時計と時刻表だけを見て時間を待つだけよりは、ちょっとおしゃべれたりお茶を飲めたりできたりする駅であればよいと思います。

【市長政策室長】

お金がかかる話になりますが、城端駅については、予算をいただいてどういう風にしていくか総合的に整備していくか今、検討しているところです。福光駅につきましては、コンビニがなくなりまして、民間の方にどう活用してもらえるか考えていただきます。福野については、トイレが新しくなりましたが、それ以上の進展は今のところありませんので、それも含めて考えさせていただきたいと思います。

【B 委員】

私は反対意見なのですが、お金をかけて地域をPRするのは大事ですが、私の感覚からすると古びたところに魅力を感じることもあります。油田駅などは無人駅ですが、そのプラスチックの椅子に誰かが編みこんだ毛糸のものが置いてあったりします。そこに座ると、多分どこかのおばあちゃんが編んだ毛糸だと思うのですが、ほっとして、田舎の良さを感じます。行政がお金をつぎこんできれいにしてしまっただけでクッション性のきいた椅子にしてしまうと、せっかくのあたたかみがなくなり、人はいないのですが、ここにわざわざお尻を冷やさないように引いてあるクッションに、すごくホッとするものを感じます。ただお金をつぎ込めばよいというものではない、その良さが不必要いよねって思われるのが怖いと思います。

【産業経済部長】

まさにそれが、おもてなしであったり、幸せのおすそ分けだと思います。私達が今考えているのは、行政で何でもするよりも、地域の方と駅はコミュニティの場であるとの共通理解をとりながら、何があればいいのか、ボランティアの方やガイドの方など、どのような方が集まればいいのか、観光協会も含めて検討を進めていますので、いろいろな意見をいただければと思います。ありがとうございます。

【委員長】

では、次に2番目の2次定員適正化計画の説明を事務局からお願いします。

[事務局から説明]

【委員長】

只今の説明に関しまして、ご質問、ご意見などございますでしょうか。

【G 委員】

毎年、このようなものがでるたびにドキッとしますが、南砺市として適正な人数を何人とみておられるのでしょうか。行政センターのあり方の検討とありますが、私どもの小さいところは職員がまた減らされるのではないかという危機感があります。村であったときに比べると、職員数は純然と少ないのですが、やはり、イベントなどでは、先頭に立つわけでもないのですが、行政センターの職員のご協力があって取り組めるものもあります。非常に負担をかけているのは重々分かっているのですが、600人足らずの地域ということもある中で、どこまで減らせば、南砺市として適正な人員なのかお聞かせいただければと思います。

【総務部長】

今の定員適正化計画についてですが、合併当初から比べて200人の数を減らしており、各部署がだいぶ窮屈な感じになっています。現状のままですと、そんなに減らせれないのではないかなという現実もあります。では、なぜ今回計画を作るのかと言いますと、例えば647人を600人にするというのではなくて、今現在の仕事のやり方で、どれだけの人数が適正かということをもまず出したいということがあります。なおかつ、民間でできることがあれば、民間に委託し、定数を若干減らしていくことも具体的に検討して作っていきたいと思っています。合併当初、類似団体と比べて非常に多いということもあり、採用者を退職者の3分の1補充して10年間で200人の削減に到達しようとしているところです。ただ、今の人数でこの業務をそのままやっていると、かなり厳しい状況になっております。さらに100人、200人減らしていくという計画ではなくて、今のあり方であればこの数値、若干の見直ししていけばこの数値と、今分かっている範囲で作っていくのが今回の計画だと思っています。行政センターの有り方もあり、全く避けて通れない部分もありますが、それをなくしていくという前提ではないことをご理解いただければと思います。はじめから100人200人減らすとういことからスタートするわけではないことをご理解いただきたいと思います。

【D 委員】

基本方針の第一ですが、南砺市の二つの病院の職員の方向性を出さないと、次期計画から対象外とすることをなかなか一般市民に理解してもらえないのではないかと思います。今後の高齢化に対して、介護支援センターやホームヘルプステーションは増員していかなければいけないのはあると思いますが、やはり病院の方向性が出されていないと決められないのではないかと思います、いかがでしょうか。

【地域包括医療・ケア局長】

病院については、25年まで病院改革プランがでていました。これは主に経営側からみた計画となっていました。今後は、医療と介護を切り離すのではなく、一体的に整備していくということで、今年度各病院について県によって、病棟ごとにどのような機能をもたせるかという意向調査が行われています。27年度に、県では、県全体の医療圏ごとに、こういった病棟、病床が不足しているのかを勘案しまして、地域医療ビジョンを作成します。その中でどのような機能をどこが持つといったことが整備されていきます。もちろん南砺市としても、どの病院にどのような機能をもたせるかを一緒に検討していきたいと思っています。国で考えているのは、超急性期、急性期、回復期、慢性期の4つあります。超急性期というのは、重い手術などを行う大学病院などを想定しています。急性期は普通の、例えば2週間の手術、退院であり、回復期は、病状が安定するところまでの入院期間を、慢性期は、いわゆる療養病床ということで、4つの機能に分化し、病院ひとつまるごとということではなくて、病棟ごとにまずどのような機能を持たせるかを病院に聞いて、その次に、医療圏ごとにこういった病棟が不足していて、余っているか、をもとにどの病院にどんな病棟をもっていかを検討していくことになります。このような中で病院機能の検討をしていきたいと思っています。

【A 委員】

基本方針の対象外には、高齢者に関わる人がなっているように見えるのですが、今、子育て支援の会議などにでていまして、保育の質や教育の質が問われています。その中で、保育園が統合されていますが、人員の配置が追いついていない、例えば、職員一人一日8時間の勤務時間として4時間一人を二人で8時間になるのではないかとされているということを耳にしたりします。これからの将来を担っていく子供を育てるのに、きちんと愛着関係を作っておかなければ、その人のその後の育ちは変わります。この対象職員のこともあります。保育園の人員の中身をきちんと保障していただきたい。中には無資格の方も40人ほどいると聞きまして唖然としたのですが、数さえいれば、時間さえ満たせばよいのではなく、ぜひそのへんを配慮いただきたいと思っています。

【総務部長】

これまでの計画では、医療職員については、人が増えればサービスが増えるといことで対象外にしていました。それと同じような関係になるのが、診療所であったり家庭地域医療センターであったり、またどんどん増えているのが訪問看護ステーションであり、これからサービスを増やしていかなければならない世の中の要請に基づくものもは、これからのあるだろうと、一定の枠の中に入れるのではなく、対象外としています。子育てについてですが、そこは減らしていいということではなくて、子供の数がどんどんへっている現実はあるのですが、子育ては子育てできちっとやっていくということです。先程言いましたように、これだけ減らすために、ここをこうするという計画ではなく、これだけのサービスを維持していくためこの体制ではどれだけの必要だということを出算する計画でして、非常勤職員が多いということは検討していきますが、決して、子育てをないがしろにするということではないということをご理解いただきたいと思います。

【C 委員】

今回出された計画の策定については、削減ということは特にうたっていないわけですが、32年までの5カ年間をどうするかということですが、市民の納得する形、時代に合った形で見直していただきたいということをお願い申し上げます。

【総務部長】

おっしゃるとおり、減らしていかなければことは傾向としてあるのですが、今の業務にあった人数であるかどうかを踏まえて考えていくところであります。この計画については、推進委員会で方向性をお示しして、部会等で検討したものを中間報告し、最終的なものを委員会、議会で報告し、市民のみなさんにもお示ししていきたいと思ひます。

【F 委員】

3番の検討事項で、民間に業務委託が可能な事務事業を洗い出すとあります。部署により仕事の内容が異なり大変だと思ひますし、例えば、民間の中でも、仕事をアウトソーシングで外注することは、その行為自体がひと仕事になっているという話もよく聞いています。そういった事態を避けるために、例えば部下が作業を委託しやすくする際に使用できるフレームワーク作り、例えば要件定義から契約、実施管理、納品に至るまでの雛形のようなものが各部署に横断的に簡便に使えようになればよいのではないかと思ひます。民間でも人材育成も同時に大切になっており、その点でも考えていただければと思ひます。

【総務部長】

仕事を外注するためにその仕事を作るのは意味のないことだと思ひますし、やはり合理性が大切であります。そうならないように気をつけたいと思ひます。

【委員長】

職員の数に関しては、各自治体も頭を悩ませているとことだと思えます。大学でも少数精鋭でどうやっていくかが大きな課題になっています。人の対応は基本だと思えますが、最近の情報機器を用いて、例えば繰り返し説明する部分はDVD等の映像を活用していくなどの方法もあるかと思えます。職員のOBの方で、ボランティア的に地域のために活躍したいという方もおられると思えますので、そういう人とともに一緒にやっていくという考え方もあると思えます。検討事項の中にも触れられていますが、部署がかなり細分化されていますので、横断的な部署も必要になってくると思えますし、住民へのサービス面での共通する部署を作るという思い切った再編も必要ではないかと思いました。では、次に3番目に公共施設等総合管理計画の策定について事務局から説明をお願いします。

[事務局から説明]

【委員長】

只今の説明につきまして、ご質問ご意見などございますでしょうか。

【F 委員】

計画を策定する際、市民の参画については、ワークショップなども考えられますが、参画すべきではないということもあるかもしれませんので、どのように進めていかれるか教えてください。

【施設再編係長】

公共施設等総合管理計画は、3月までの作成を予定しており、4月には住民の皆様の説明会を考えています。その上で、公共施設再編計画の策定については個別施設の計画となりますので、説明会での意見を踏まえて、庁内でたたき台を作る予定です。これについても、市民の皆様へ全戸配布や説明会をします。ワークショップは行うかどうかは、これから検討していきますが、個別の施設の計画になりますので行政だけで作るのではなく、市民の皆様意見を聞きながら進めていきたいと考えています。

【H 委員】

公共施設等の管理計画ですが、人との関わりが非常に重要だと思えますが、計画のズレがあるように感じます。どのように考えているのでしょうか。

【総務部長】

先程、定員適正化計画は3月まで作りますので、おっしゃられたように、時期的なズレが生じます。そこで先程の見直事項を定めております。公共施設の計画を待ってから定員

管理計画を作るのでは、時間もかかりますし、別個に計画策定は進めていきまして、定員適正化計画は現況の中で作った上で、公共施設再編計画がでてきた段階でマッチングを考えています。

【G 委員】

行政改革推進本部会議、行政改革推進委員会、幹事会はどのような役割でしょうか。

【総務部長】

最終的な民間の意見を聞くというのが、この行政改革推進委員会です。推進本部会議は、市役所の部長等で構成する組織で、この推進委員会にあげるための内容検討を行います。幹事会は、本部会議の下準備や資料づくりといった作業部会になります。

【B 委員】

公共施設等総合管理計画は総務省の依頼によるものだといわれました。公共施設再編計画とかぶる部分があり、逆に手間がとられるのではないかと思います。再編計画は別の委員会が作成するのでしょうか。

【総務部長】

よく似たことに取り組んでいます。再編計画については、27年までの計画期間になっており、次期計画についても考えていかなければいけないと考えています。今回、総務省では、全国的に施設が古くなっており、今後市政運営に大きな影響を及ぼすと考えており、今後どのように施設を維持管理し、削減するか、財政的な観点からも点検しなさいという通知であります。今回は、策定の経費が地方交付税で負担するとのことで、財政面で有利だということがあります。南砺市としても、次の再編計画を作る上でのベースとなるデータをしっかりつかんでおかないと住民の皆様も納得しないと思いますし、この公共施設等総合管理計画を作ることは、次の公共施設再編計画につなげていけるベースとなる調査になります。計画策定に向けての別の委員会は特に設けない予定です。一緒に委員の皆様の見解を聞きながら進めていきたいと思っています。

【委員長】

他に意見がなければ、次の公共施設再編計画の進捗状況について事務局から説明をお願いします。

〔事務局から説明〕

【委員長】

資料ナンバー4-1、4-2 公共施設再編計画についてご質問などございませんでしょうか

か。

【G 委員】

2 ページの 18 利賀総合センターについては、商工会とバスは移転され、実質的に農協のみだけなんです。総合センターの入り口のコンクリートがはがれて落ちている状況です。日常用品を買えるのは農協しかないので危惧をしています。将来的に壊すというのは分かっているのですが、現実を使用している施設が危ないのも何とかしていただけないでしょうか。

【総務部長】

利賀総合センターには、最終的に農協が残っており、壊すというのは簡単なのですが、農協がどのような対応されるのか気になるところでして、危ないので使わないでくださいと言って、そうなっても困ることもあると思います。行政としても憂慮すべき点であり、意見交換しながら進めています。まだ最終的な方向性がでていないのですが、利賀の住民の方には農協が大切だということは十分分かっておりまして、農協とも相談し、対応させていただきたいと思います。

【C 委員】

公共施設再編計画は 27 年度で終わり、公共施設等総合管理計画とダブっている感じがします。もう少し精査して欲しいです。また施設の台帳の精算をされるとのことですが、福光の野外児童センターについては、前回も質問したところですが、施設の中に含まれておらず、まだ回答をもらっていないところですので、もれないようにしていただきたいと思います。

【総務部参事】

総合管理計画は、今年度中に作ることとなります。これをベースに、次の新しい公共施設再編計画を作ることになり、管理計画の策定が終わると同時に新しい再編計画の策定が始まる格好で進める形となります。すでに解体が終わっているもの等は次の再編計画からは外すこととなります。屋外施設については、調べてみましたところ、南砺市社会福祉協議会の所有する建物でした。使用状況は熊が出るなどの理由から閉鎖状態ですが、社会福祉協議会の理事会で話しして欲しいとは言っているところです。

【C 委員】

建物は社会福祉協議会のものということですが、一帯の管理としては、市の財産だと思います。熊の問題と公共施設の問題で考えると何となく脱線している感じがしますので、しっかり見ていただきたいなと思います。

【総務部参事】

もう一度調べさせていただきたいと思います。

【委員長】

では、次に進みたいと思います。施策・事務事業マネジメントシートの公表について事務局から説明をお願いします。

[事務局から説明]

【委員長】

ご質問等ございますでしょうか。

【F 委員】

内部評価だけでも大変だと思いますが、一部だけでも、外部評価を検討していただければと思います。民間では、様々な角度から評価する制度で、画期的な評価に取り組んでいる企業もあります。民間と行政は性質が違う面があると思いますが、市民か議会か分かりませんが外部評価の取組について計画があるのか、あるとすればどのようなものか教えていただければと思います。

【総務部長】

将来的には、外部評価を取り入れていきたいと思います。昨年から公表を行っている状況でして、外部評価にだすというよりも、議会の監修や監査委員の目を通していただいているところです。厳しい意見もありまして、これが本当にいかされているのかという意見もありました。729 の事務事業がありますので、職員が作るのも大変ですが、見るほうも大変だと思いますので、中身を精査していかなければならないとも思っています。このシートにつきましては、予算に、決算に、そして来年の施策に使うというサイクルが大切だと思います。その取組を始めたばかりでして、まずはきっちりと内部で活用等を考えた上で、今年来年というわけにはいかないかもしれませんが、最終的には、外部評価も取り入れていきたいと思います。

【委員長】

他に意見等ございますでしょうか。全体を通じて言い忘れたこと等あればご意見をいただきたいと思います。

2 : 08

【I 委員】

今後、策定しようとする計画は大変だと思えますが、早く取り組んでいただければと思います。公共施設再編計画については、策定した経緯があるものですから、なかなか整理が難しいと思えますが、いろんな角度から見たうえで英断が必要だと思えます。お金をつぎこんでいかなければいけない施設もあると思えますが、有効に使っていただきたいと思えます。診療所があれば医師、看護師が必要ですし、病床があれば病人がいなくていけないこともあります。そういった関連を上手に使っていかないと上手くいかないと思えます。両方とも施設が有効に、早く活用できるよう取り組んでいただければと思います。

【副委員長】

その他ございませんでしょうか。委員長からまとめがあると思えます。貴重な意見をいただきありがとうございます。10年間をみてみましても、急激な過疎化が進んでいる旧村部からの厳しいものがあつたように思えます。職員を200人削減しているところですが、これ以上減らして従来の政、先頭役を担っていた職員が減ることはますます過疎化を進めるのではないかという懸念もあつたように思えます。見直しを凶るといふ点にも触れられており、私も同意するところですが、一番の特効薬は、無駄の多いといふ思えますか、分庁舎方式の問題があると思えます。庁舎が統合することによって、職員数の削減を期待できるのではないかと思えます。少なくとも公用車300台が半分くらいになるのではないか、職員の時間、燃料費、これから暖房等の経費も大きいのではないかと思えます。資料1-1で2病院の医師数の割合はわかるでしょうか。

【地域包括医療・ケア局長】

嘱託を除きますと二つの病院常勤は25年度末で29名です。嘱託職員は4人で、一日診ていただける医師が南砺中央病院で9名です。他に非常勤の先生が40名あまりいらっしゃいます。

【副委員長】

嘱託も含めるとかなりの人数になりますね。医師の数自体が少ないと思えますが、例えば臨時職、嘱託がかなり多いのではないかと思えます。保育師では、殆ど臨時職員ではないかという感じさえして見直しの時期に来ているのではないかと思えます。地域に根ざした保育をする上で、優秀な人材の育成も大切でして、正職員の削減というところからいい感じがしますが、臨時職員がかなりいることも念頭に検討いただきたいと思えます。

【地域包括医療・ケア局長】

病院についてですが、実際患者の数を見ると1病院では無理があるということがあり、先ほど説明しましたように機能分担も含めて見直しが必要かと思っています。また、今後、医師の方が来ていただけるような病院の改革を今後も進めていかなければいけないと考えていますので、今後もよろしくお願ひいたします。

【委員長】

今、副委員長からも総括的な話をいただきました。今日は、行革の進捗状況などについて活発なご意見をいただきました。話題にはあがらなかったのですが、未着手や後退、12件あります。その中で、高齢者福祉サービスや市内交通の問題があり、観光やまちづくりを進めていく上で、関連する事業もあり、今後のことを考えれば、適切に迅速に進める必要があると考えられます。難しい問題もあると思いますが、しかるべき対応策等を考えて極力前に進めていただければと思います。各委員にいろいろな意見を出していただきましたので、事務局で今後進めるにあたり考慮いただき、次回、今日の意見は、どのような対応したのかという報告をいただければと思います。これらの問題は、答えがない、手本がないものが圧倒的に多いと思います。どう進めるか難問だと思いますが、住民サービスの多様性に対応するためにも、職員だけでなく市民参画など民間との連携・協働も必要かと思います。市が悩んでいる問題をオープンにしていくのも方策であり、住民とともに悩みながら進めていく時代でもあると思います。企業でも技術の情報をオープンにしている時代であり、率直に消費者に聞いていますし、サービスや人が不足していれば、NPO法人や民間が担当するなど、オープンマインドで協働で政策を進めていただければと思います。以上で、今日の委員会は終了させていただきたいと思います。この後は、事務局にお返ししたいと思います。

【総務部参事】

委員長ありがとうございました。また、委員の皆様方には、長時間に渡りまして貴重なご意見をいただき、誠にありがとうございました。それでは、閉会にあたり、市長からご挨拶をお願いいたします。

【C委員】

今後の委員会のスケジュールを聞かせていただきたいと思います。

【公共施設・再編課長】

先程、いくつかの計画を3月までに計画を策定したいと説明しました。その中間報告を1月に行った上で、3月にも開きたいと考えています。

【市長】

委員の皆様から長時間にわたり、たくさんの意見をいただきありがとうございました。我々のすべきことは皆さんと共有できたのではないかと感じました。また、これらの意見をまとめて、英断をすべき時に英断すべき準備段階にはいっており、言えることと言えない事がある中、言葉はオブラートに包みますが、この1,2年で英断をすべきとがあるかも

しれない、そのことに向け今積上げている段階でありますので、ご理解いただければと思います。10年たち、今後の流れの中で、取捨選択の話もありました。大きな流れのなかで、各論では本当に難しい面もあります。当たり前ですが、丁寧に一生懸命説明する思いを強くしたところです。来年度以降、人口減少問題に対してどういう事業を取り組んでいかなければならないか考えているところであり、新幹線の開通もあり、これまで以上に交流人口を増加させていかなければならないところです。日本の中で地方への移住を考える人がいるなら、どこを選ぶかを考える時にどこが選ばれるか、というときに、明確なメッセージを送らなければならないと、ここ何年間か取り組んできたところです。例えば、エコビレッジ構想や老後の地域包括医療ケアについては、全国的にみると先進的な取組ということで、みなさんに少しずつ理解を得ているのではないかと思います。これを生かしてメッセージを送りたいと思います。そして忘れてはいけないのが、子育て支援であり、来年度特に入れていきたいと思っています。婚活、結婚、妊娠、育児、教育と切れ目のない形での支援が必要と考えています。保育師の正職員と臨時職員の話がありましたが、これも大きなバランスの問題かと思っています。保育園の統合は、来年めどがつくところでして、今後、サービスの強化、地域包括ケアの面で民間委託、給食業務の委託がどうか、選択と集中をしていくところです。一気に職員を増やしたり減らしたり出来ないのも、今後の方向性を見据えた上で、人員の適正化を作っていくことが大切かと思っています。組織の改編では、何部があって何課があるという見直しについて、係の中でも、市民のみなさんと接する部署と、業者や県だけと仕事をしている部署もありますし、横断的に考える等、いろんなアイデアを出しているところです。同時に、分庁舎はどうあるべきか、ベストを目指してどのようなロードマップで進めていくか、しかるべき時期に発表する準備段階ですので、しっかり準備を進めていきたいと考えています。また、日頃思ったことやいろんなことで、皆様方の意見があれば、ぜひ事務局に問い合わせさせていただき、幹事会や本部会議などで検討させていただきたいと思っています。お忙しいところとは思いますが、ぜひ皆さんと一緒に考えて進めて行ければと思います。本日はまことにありがとうございました。

【総務部参事】

これもちまして、南砺市行政改革推進委員会を閉じさせていただきます。本日は委員の皆様、ご多用のところ、ご出席いただきありがとうございました。